

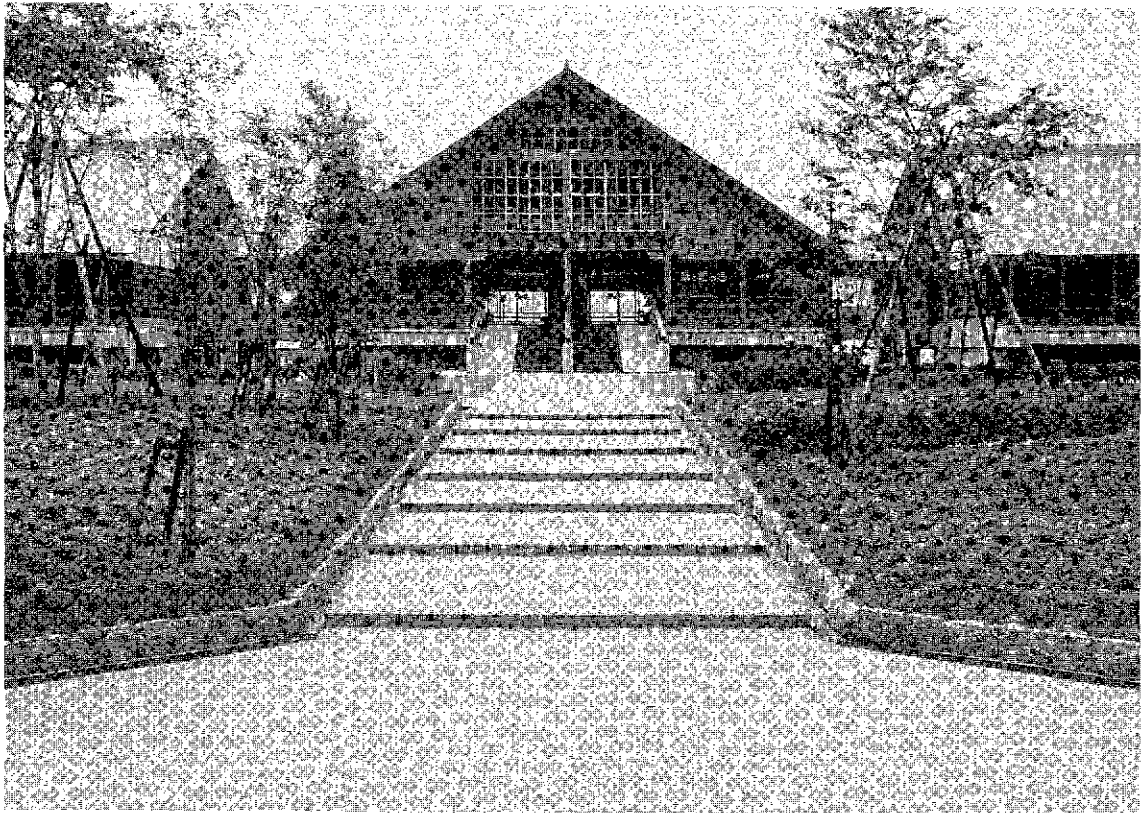
新潟県

平成7年

公民館月報

8月
第510号

特集 越佐の自然にロマンを求めて —その2—



米と酒の謎蔵

「豊かな自然に抱かれ

不思議に酔い

不思議を味わう」

命の糧となり

暮らしを潤す

米と酒の文化を

学ぶ博物館

三和村

（写真・資料提供、中頸城郡
三和村公民館）

第46回新潟県公民館大会

コミュニティづくりと公民館のかかわり方

地域に適した住民との対応の仕方を求めて

市・町・村ごとの特性を考える

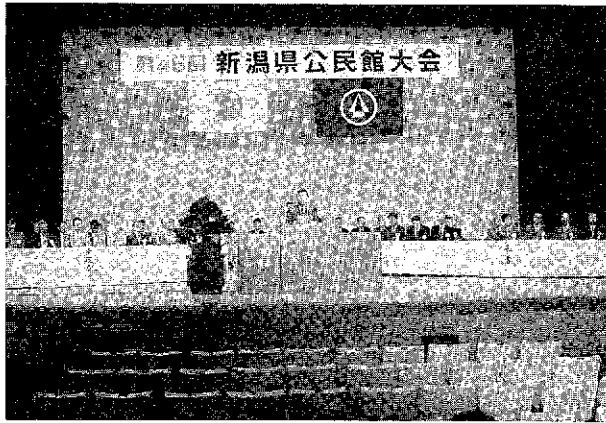
去る七月二十八日(金)、第四十六回新潟県公民館大会が弥彦総合文化会館で盛大に開催された。

参加者は五百七十余名という多数で、「地域コミュニティづくりと公民館のかかわり方」という主題のもとで、分科会と記念講演から構成された日程で、地域や規模の特性にふさわしいコミュニティづくりを真剣に考える大会が展開された。

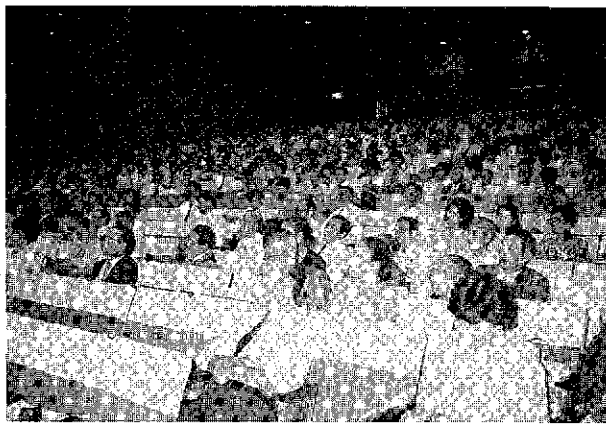
「万葉人の心が 息づく村」とうた われている弥彦村の総合文化会館で 緑あふれるすぐれ

「万葉人の心が 息づく村」とうた われている弥彦村の総合文化会館で 緑あふれるすぐれ

「万葉人の心が 息づく村」とうた われている弥彦村の総合文化会館で 緑あふれるすぐれ



開会式



全体会風景

元弥彦村村長安達行雄氏の歓迎の言葉、新潟県公民館振興市町村長連盟会長 近 寅彦氏の来賓祝辞で開会式典を終了した。表彰式では受賞者(七月号で既報)を代表して三条市の外山誠四郎氏が謝辞を述べられた。

分科会は、会場の構成上やや困難な人数配分になるのではないかと懸念していたが、大会事務局・地元の強い要望で市部・町部・村部のコミュニティづくりをテーマに、工夫して各部会で実践発表をしてもらった。

その成果があつてか具体的な事例をきっかけに、各地域のコミュニティづくりの様々な実践や課題が湧くように出た。

現在ほど町づくり、人づくりの必要を切実に住民が感じている世情はそうない。公民館は、

元ろに地域の問題を背負う場所と機能をもっている。水害、地震、火災、活動の受け皿とならざるを得ないことを目の前で体験しているので、真剣な討議がなされた。

午後は、上越教育大学 前田幹教授の講演「地域社会を生きて」で、バリア論などを提言される、積極的な公民館人としての生き方を勇気づけられる事例や示唆で深い感銘を与えられた。

閉会式では、次期開催地栃尾市の公民館長 今井十志崇氏へ公民館旗が継承された。

最後に西蒲・燕公民館等連絡協議会副会長 鷲尾忠資氏から「栃尾で会いましょう」という言葉とともに燃えた大会を無事終了した。

大会スケッチ

やっぱり研修に参加しなくては…

弥彦駅長 遠藤麻理さんの爽やかな司会で始まった新潟県公民館大会は弥彦の杜の総合文化会館の神神しい雰囲気の中で盛大に開催されました。

歴史を語る杉や松の巨木と緑したたる美しい風景。よく整備された会場の内外で、日ごろの悩みを忘れさせて、「よし今日は、むらづくり、まちおこしを考えてみるぞ!」と元気を出し

て参加しました。

「市・町・村のコミュニティづくり」というタイトルに、定期的にもいろいろな課題をかかえていたので「公民館人としての自分」の存在を確かめるよい機会だったので、私は「町部」に出席して考えさせられることが沢山ありました。

(T 記)

新潟県公民館振興市町村長連盟総会開催

新会長に近 寅彦氏 (新発田市長)

副会長は 小野 佳二氏 (豊栄市長)

去る7月4日(火)、新潟市白山

会館を会場に、県公民館振興市町村長連盟の、平成7年度定例総会が開催された。

来賓には、県教育委員会から岩根靖治生涯学習推進課長、県市長会から梶井 猛事務局長ならびに、本会の細川 仁会長・小林秀夫・森 忠三副会長が臨席、定刻午後1時30分に開会さ

れた。近 寅彦副会長の議長により議事が進められた。

議事は、平成六年度合務報告と歳入歳出決算報告、並びに、平成七年度の事業計画と歳入歳出予算の順に審議され、いずれも原案通り可決された。

続いて、議事は役員改選に移り、先に理事会で相談した推薦

案を満場一致で可決選任した。新役員は名簿のとおりである。

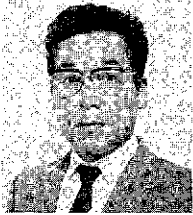
伊豆野壹郎前会長の在任期間中当連盟の重点目標として掲げ

「新潟県立生涯学習推進センター」の竣工が平成4年度に実現したことは特筆すべき実績である。

今後、さらに、生涯学習推進

視点

四季を通じ、角田山への登山者が増えている。自然に親しみ、体力増進、心のレフレッシュに格好の山だからである。



角田山一周の登山バ、りだ。角田山の色彩が変わってきた。特にここ数年の変化は大きいよう

もう一つの魅力を 石田 誠太郎

山は年々減少するばかりに、山林も人工林から自然林に戻ってきた感が

する。

この現状から、登山道や登山バスの走る道路脇に楓や秋に紅葉する樹種を計画的に植え

角田山の秋の魅力が一つ加えられ、訪れる人々から一層喜んでいただけると思うのだ

自然破壊をしない観光開発の一視点として。

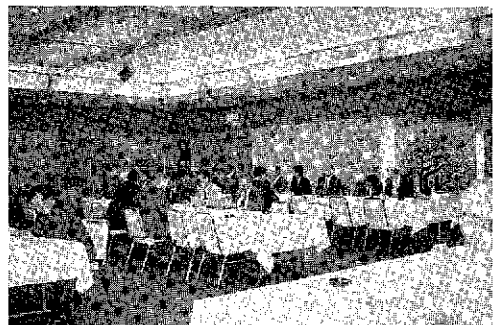
(巻町公民館)

角田浜分館長)

のための教育施設の必要がある。のでさらに関係団体と協力して陳情活動をするようにと近新会長が語った。



右 上 挨拶する近会長 総会風景



平成7年度

新潟県公民館振興市町村長連盟役員

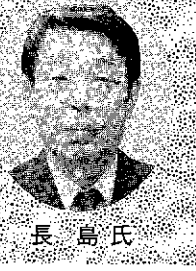
会長	新発田市長	近 寅彦
副会長	青海町長	小野 佳一
副会長	豊栄市長	小川 竹二
理事	中条町長	熊倉 信夫
理事	山北町長	板垣 実太
理事	金井町長	近 藤 浄
理事	小千谷市長	小出 芳昭
理事	堀之内町長	星 野 雲
理事	川西町長	南 島 長
理事	糸魚川市長	木 塚 久
理事	新井市長	大 塚 直
理事	松代町長	関 谷 部
監事	村松町長	阿 部 山
監事	中之島町長	

著者紹介(承前)

長島義介教授は昭和13年、西蒲原郡巻町に生まれ、中学校教諭、県立高校教諭を経て、現在新潟青陵女子短期大学教授として勤務されている。

西蒲原郡巻町双書のうち「角田山の博物誌(双書26号)」を上梓する中心的な役を果たされた。昭和61年マリアアを媒介するハマダラカの研究で医学博士号を取得された。

このたびも引き続きいて自然環境に深い研究をされている氏から、良寛さまと「董」についての深い考察での心のふるさとをゆり起こしてもらいたいと思えます。



長島氏

を追って
ロマンを求めて
(その二)

董歌思考

長島義介氏

私は二十五年前、国上山で生徒たちと雪割草(オオミスミンウ)の調査をしていて、ふとこんなに美しい花なら良寛さまが歌に詠まれているに違いないと思ひ、学校に帰ると図書館で東郷豊治著「良寛歌集」と「良寛詩集」を初めて披見しました。

しかし、雪割草を詠まれた詩歌はどこにもありませんでした。そんなはずはないと思ひながら詩歌を鑑賞しているうちに、良寛さまが人間として秀逸された方であられることをおぼろげながら知ることができ、そしてまた栄蔵少年の頃から自然思慕の心をもっておられたことを知り、私の愛する雪割草が良寛さまへ誘ってくれたことに感謝せずにはおれませんでした。

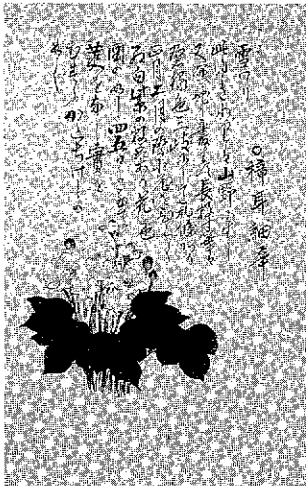
そしてまた、万葉歌に彩られた大和の自然のように、越後の自然が輝くのを覚えました。この後、私は良寛さまに魅了

されて詩歌を愛読するようになったのですが、早春の山べを愛された良寛さまが雪割草を見られなかったはずはない。見られたら歌に詠まれないはずはないという思念が年を追って募りました。

短大に勤務して間もない春日の日、研究室で雪割草の花を写真に撮っていると、訪れてきた同僚の女性が「何の花ですか。スミレの花ですか」と問いかけました。またこの年の夏、私は佐渡の外海府でクラブの学生と合宿をし、宿の主人から藻浦では福寿草を雪割草、雪割草をスミレと呼ぶという話を聞きました。これらのことは、私が良寛さまの董歌の董草は雪割草ではないかと思っていた矢先だったので嬉しくてなりませんでした。

ここでは、私の生涯学習の一例として、良寛さまの董歌を探求してきた過程を紹介したいと思います。

古書に見られる雪割草



ナチュラリスト

栄蔵少年

私は良寛さまが少年時代、大森子陽の塾に通っていたときの親友であった富取之則や

三輪左一の物語を悲しんだ哀悼詩の中に「子とは少小より狭川の睡を往還す。ただに同門の好みのみならず。ともに烟霞の期あり。」とか「子とは少小よりとにも煙霞の期あり。」と詠んでおられることを知り、良寛さまが少年時代から並々ならぬ自然思慕の心をもっておられたことが分かりました。

この少年時代の自然敬慕、自然思慕の心は、後年に詠まれた詩歌の随所にみられ、「自然に悩乱されてこといまだ休まず」とか、病床の中にあつて「夢は山野をとび歩き」、また「花に迷ってここに帰らず」とか「人事より専ら自然に心ひかれているからだ」といった詩文で語られています。

この少年時代に抱いた自然思慕の精神は、良寛さまの生涯に大きな影響を与えたと私は思うのです。即ち、僧良寛、書の良寛、詩人良寛さまとして讃えられる前にナチュラリスト(自然愛好家)栄蔵少年が存在したのです。

越後海岸部の自然

良寛さまが慕う自然は、常緑樹で覆われた暖地の自然ではなく、雪国の春、紅葉する秋、そして雪の降る故郷越後の自然だったように思います。



五合庵に位置する混生するヤブツバキとナツ

あの美しい瀬戸内海は自然にせつしられながら、西海はわが郷にあらず、たれがよく長く滞らん」とか、「故郷を出でてより境を過ぐるも才短くして詩成らず」と歌われています。恐らく常緑樹の自然は良寛さまの琴線に触れることがなかったのでしょうか。

これとは逆に、故郷の自然の中では、「雪が降るとなんとなくわたしは詩をつくりたくなる」と謳われ、雪解けの三月になると「草履で雪を踏み」とか「杖をついて春の野山を遊びあるく」と詠まれています。これらの事から察すると、良寛さまの自然思慕の心を育んだのは越後の自然、故郷の自然

シリーズくらしの課題 特集 越佐の自然に

良寛さまの

新潟青陵女子短期大学教授

だったということができず。

しかもこの自然は、同時代に越後で生きた鈴木牧之の豪雪の世界とは異なっていました。良寛さまが過ごされた三島郡や蒲原、特に海岸に近い山地の自然は、雪国越後の中にあっても積雪量が少なく、冷温帯と暖温帯の生物が混生する地域なのです。

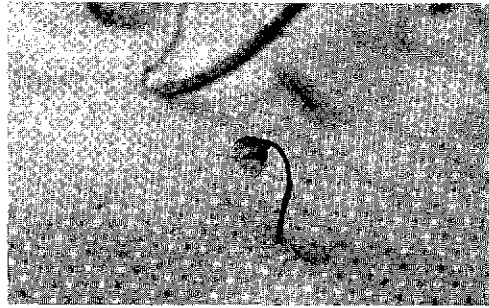
大正六年に巻町に宿して、良寛さまの遺跡巡りを行った相馬御風は、初めて接した弥彦山を中心にしたこの地の景観を望み、「不思議にも一種の南国味の加味されていることを思わないではいられなかった。」と、雪国にあってこの地の特殊性を看取

しています。

また五合庵周辺の地形は、北に弥彦・角田の山なみがあり、西には佐渡の島が浮かぶ海、東は大小の河川が流れ、南の丘陵地は日本の原風景である山里と谷津田が入り組み、箱庭のような景観を呈しています。

往時、早雪と水との闘いに日々をおくっていた農民にとつて、この地は決して恵まれた大地ではありませんでした。けれども、世を捨てた良寛さまにとつて、人事にまどわされることなく、この変化に富む美しい自然をこよなく愛され、晩秋や厳冬を詠んだ詩歌も、自然を愛するがゆえの哀悦の声であるように感じます。

そして隠遁生活をなされてい



淡雪の中に咲く雪割草

る良寛さまの心は、歌人百瀬徳太郎が詠んだ「山想えば人恋し、人を想えば山恋し」の孤独を愛するナチュラリストに共通な心境ではなかったかと察せられます。

出雲崎・国上の春

良寛さまがお生まれになった出雲崎の裏山は、東頸城丘陵と呼ばれる低山地が連なっています。この丘陵の雑木林の林床には雪割草が自生しています。

この山地の春の花の移ろいは早く、瞬く間に花の種類が代わります。三月下旬になると残雪の縁から雪割草が咲き始め、中旬になると見事な雪割草のお花畑が山肌一面に出現します。

このお花畑を見た植物研究家の久山敦氏が「新潟県の海岸に近い自生地を早春にたずねたととき色とりどりに咲き乱れるオオミスミンソウを前にして世界広しといえども、一種の花でこれほどの変異が見られるのはほかにあるまいと思つたことがある」と述べているように、三島郡や西蒲原郡の海岸山地は、世界でもたぐいまれな雪割草の自生地なのです。

これまで、雪割草の自生地に人々を案内しましたが、そのお花畑を見て感嘆の声をもらさないう人はおりませんでした。この

ようなお花畑は、乱獲される前の国上山や五合庵の裏山にもみられました。

そして三月下旬になると、オレンやミヤマカタバミ、スミレサイシン、ナガハシスミレ、ツボスミレ、キクザキイチリンソウ、カタクリといった順で花が開きます。

平野部で、スミレの花が咲き始め、一般の人々が春を感じるのは四月になってからです。良寛さまの歌「つぼ菫咲くなる野辺に鳴く雲雀聞けどもあかず永き春日に」は、まさに四月の歌ということが出来ます。

良寛さまの菫歌

良寛さまは菫の花がお好きであられたと言われています。それは、他の花に比べて菫を詠まれた歌が多いことに起因するものと思われれます。

しかし、私は良寛さまの菫歌の多くは雪割草を詠まれた歌と思っています。良寛さまが詠まれた菫歌や俳句は二十首ほどあるのですが、歌意が同じものはここでは省き、次のようなグループに分類して見ました。

「菫草の歌」

わが宿にひとと植えし菫草
いまは春べと咲き初めぬらむ
いそのかみ去年の古野の菫草
いまは春べと咲きにけるかな

いそのかみ古野に生ふる菫草
摘みて贈らむその人やたれ
菫草さきたる野べに宿りせむ
わが衣手に染まば染むとも
道のべに去年の古野の菫草い
まは春べと咲きにけるかも
道の辺にすみれ摘みつゝ鉢の子
をわが忘るれど取る人もなし
鉢の子に菫たむほゝこき混ぜて
三世の仏に奉りてな



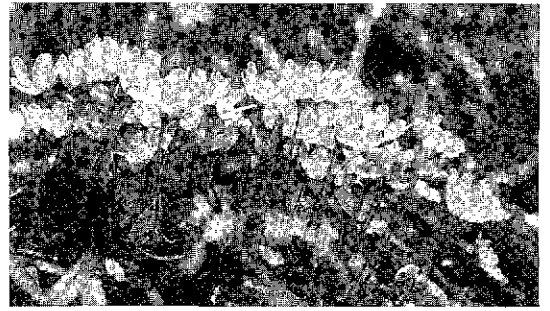
林床に咲き乱れる雪割草のお花畑

「花遊び歌」

いざことも山べに行かむ菫見に
明日さへ散らばいかにかせむ
こどもらよいざ出でいなむ伊夜
日子の岡の菫の花匂ひみに

「人生懐古の菫歌」

しきたへの袖ふりはへて春の野
に菫を摘みし事もありしか
春の野にさけるすみれをてに摘
みて吾が故郷をおもほゆるかな



春光に乱舞する雪割草の花

墨染の袖ふりはへて春の野に
すみれを摘みし事もありしか

古野の葦草

これらの葦草の中で、少なくとも「古野の葦草の歌」こそ雪割草を詠まれたものに違いないと私は思うのです。問題は古野の意味です。このことについて俳人の本多木賊氏は「良寛の俳句遺逸」の中で、枯野と古野について考察を行い「結局、良寛の造語かと思われるが、古草の生えている野」とみなしています。

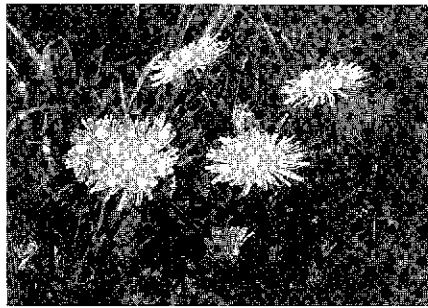
良寛さまは雪解けの風景(二月上旬)を詠んだ俳句と葦草を詠まれた和歌に古野を用いられています。一方、「秋風の

夜ごと寒くなるなべに枯野に残る鈴虫の声」と詠まれています。雪汁や雪解けの句や葦草の歌に「古野」を詠まれているのは何故でしょう。私は良寛さまは枯野と古野を意図的に区別されているように思えるのです。辞書で「野」を調べると、自然の広い平地。多く、山すその傾斜地とあります。丘陵地の雑木林の多くは山すその斜面にあり、その春の林床は雪の重みで前年の枯れ草や常緑の葉は落葉の下に押し潰されています。そして落葉した雑木林の梢からは早春の陽光が一杯に降り注ぎ、林床はまるで明るい野原といった感じがします。

この褐色の山肌に雪割草の花だけが一面に咲くのです。したがって、古野とは、平地の枯野と早春の雑木林の林床とを区別するために用いられた造語のような気がします。そして、丘陵の浅い谷間にある水田(谷津田)の縁も古野の延長と言ってもよいように思います。

葦草愚考

このように解釈すると、昨年の春、山からとってきて植えた雪割草が今は春へと軒先で咲いている。そして、あの山の斜面(古野)に咲いていた雪割草が今年も一面に咲き乱れている。



早春の山辺に咲くエゾタンポポ

また千変万化に咲き乱れるお花畑の中で、紅・桃・藍・紫・白の花を摘んで、誰に贈ろうかという心情や「葦草さきたる野べに宿りせむわが衣手に染まば染むとも」の歌意も私には納得できません。梅にしたいと思うほど咲き乱れるのは雪割草しかないのですから。

鉢の子に摘んだ葦も雪割草に違いありません。私は雪割草に魅了された最初の頃、花の変異を求めて山の中で歩き、リックを何処においたか忘れてしまっただけのことがあります。良寛さまも、あの桐山の子どもたち(その一)のように夢中で花摘みをされ、鉢の子を忘れてしまったのでしょうか。また、名歌童たむばも、同時期に咲くエゾタンポポと雪割草の花をこ

き混ぜたらスミレの花よりも豪華な花束になったことでしょうか。次に道のべの葦草ですが、私は早春出雲崎の良寛さまが通われたといわれている旧山道を歩いてみました。出雲崎の港が眼下に見える谷間の斜面には雪割草が咲き乱れ、遠くには佐渡の島が浮かぶ青い海が見えました。狭く荒れた山路の道のべにも雪割草が咲き乱れていました。この地なら、ひょっとしたら、「あげ巻の昔をしのぶ葦草」の句は、良寛さまが幼少の頃、お母さんに連れられて春の彼岸に丘陵の上に在る橋屋の墓地にお参りをして、その裏山に入って雪割草の花遊びに興じられた日があり、この日のことを「春の野に葦つみていそのかみふりにしことをしぬびつるかも」と詠まれたのではないかと夢想したくなるのです。また、花遊びの歌の葦も雪割草だったような気がします。「こどもらよいざ出でいなむ伊夜日子の岡の葦の花匂ひみにいざこども山べに行かむ葦見に明日さへ散らばいかにとかせむ」と歌われていますが、葦の花を見て明日さえ散らばの心情には違和感を感じます。雪割草の花の盛りは一〜二週

終わりに

皆様の中には、良寛さまの葦草の葦は季語であり、葦は早春の花の総称だと言われる方もおられることでしょう。しかし、あの芭蕉の有名な句「閑けさや岩にしみ入蟬の声」の蟬を、斎藤茂吉と小宮豊隆がアブラゼミかニイゼミかで争った文学論争のように、良寛歌の葦草がオオミスミソウ(雪割草)かそれともスミレ(葦類)かと考えるのも良寛さまを知るうえで無意味ではないような気がしています。

私は、良寛さまが早春(三月)の山辺を暮わっていること、この季節に咲き乱れる花は雪割草しかないこと、そのお花畑は類稀れに美しく変化に富んだものであることなどから考えて、良寛さまの古野の葦草は雪割草であると主張したいのです。

良寛さまは、きっと千変万化に咲き乱れるお花畑に魅了され、独りオオミスミソウの花に心酔なされていたに違いありません。

サークル交流

まだいけるかな

「二足の草鞋」

塩沢インデアカ

「よっしゃ、まかせてきよ！」と力いっぱい床を蹴り、ジャンプしてアタックで決めてやるぞと、意気込みは良いのだが、結果は、床から足が離れず重い体重に幾度となく裏切られ、ミスの連続。「ドンマイ、ドンマイ」と仲間の声に励まされ、カバールでもらった事は数知れない。20年前にスタートした卓球同好会に所属し、現在は年甲斐もなく二足の草鞋で「インデアカ」の練習に励んでいる。

昭和57年に町の体育指導員が



撒いたニュースポーツの「インデアカ」4人の連携プレーに魅力を感じ今日まで地道に練習を続けている。その種が実を結び

全国大会に県代表として町から2チームが連続出場したことは大きな成果といえるし、チームにとっても他県の選手と交流出来たことは、生涯の思い出として残る、初心の卓球も参加する事に意義があると町の大会には協力を惜しまない。新会員も徐々が増え、平均年齢15才、健康と親睦をモットーに今日も元気に汗を流している。

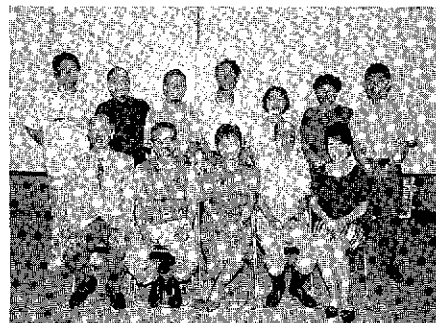
(卓球同好会 田村 京記)

モノを書く楽しみ

燕文章の会

昭和六十三年五月に開講した燕市公民館主催の「やさしい文章教室」が、このグループの出发点でした。六か月の講座終了後、このまま解散してはもつたいないと翌平成元年一月から、自主グループ「燕文章の会」をスタートさせました。

講師には第二回日本海文学大賞小説部門受賞(北陸中日新聞社主催)の間嶋稔先生を迎え、



毎月一回、これまで七十八回も休まずに合評会を続けてきました。メンバーは二十代から七十年代まで十五名。男女半々で人数は発足時と殆んど変わりません。

作品は、毎回、会員の随筆、小説二、三名ずつを題材に、全員で批評し、率直に感想を述べ合います。最後に講師の適切な指導を受けユーモアたっぷり、構成、展開、視点の決め方、文字の間遣い、かな使いに至るまで学習いたします。二時間が短い位です。独自の作品集「摘み草」を発行し、燕市の「文芸玄島」にも発表すると毎日が忙しい日々です。単純な頭を錆びつかせないよう、仲良くがんばりたいと思っています。

(燕文章の会 代表

岩崎 昭作記)

吉川町中央公民館主事

平野 真氏

配属二年目、今年二月社会教育主事取得、以前は産業課に所属し、町の観光に力を入れ頑張ってきました。特に看板書きはその時の努力のたまものなのかプロ級、公民館事業の看板書きはすべて彼まかせ、又ワープの腕前も彼の右に出る者なし。身長184cmでバランスのとれた彼は、どんな仕事も真面目から取り組んでいます。



真面目から取り組んでいます。

公民館では、社会体育を一手に引き受け、又、組合関係では青年婦人部の部長という大役もこなしています。事業が軒並みにある時は、体の休まることのない日々が続くことも、そこは、看護婦の奥さんが健康管理に気を配っておられるお陰でしょう。

生涯学習真つただ中、人との関わりが最も大切、その点彼は人当りは良いし、進んで行動、信頼も厚く、人気者です。尚一層の健闘を期待します。(吉川町中央公民館 T 記)

素顔拝見

田上町教育委員会 係長

今井 登氏

彼は教育委員会を振り出しに、農林課を経て再び公民館に復帰、以来六年、文字通り社会教育の生き字引的存在である。住民の住所、実態はもとより、田圃の所有者をたちどころに答えるなど記憶力も抜群、きけば学校時代から地、歴には自信があつたとか。スポーツは万能で、中でもスキーがうまい。最近ではゴルフにも手を染め、益々人間の幅と貫禄がついてきた。

社教係長、公民館業務のため



ているが、身体を毀さぬかと端の者は心配している。奥さんも総務課勤務でオンドリ夫婦としても名高く、仕事の理解も万全である。

一杯の酒と指の運動が、ストレス解消に大いに役立っているのか、今日も新たに加わった総合公園(YOU・遊ランド)の見廻りに飛び出していた。(田上町公民館長 佐藤 幸雄記)



平成七年度新潟県生涯学習振興会開催
テーマ「地域の特性を生かした生涯学習の推進」

日時 平成七年九月二十二日(金) 10:00~15:50
会場 見附市文化ホール アルカディア

生涯学習の必要性が叫ばれて久しいが、近年、各地において地域の特性を生かした生涯学習の基本構想や推進計画が立案され、先導的実践が行われている。本県生涯学習の一層の振興を図るため、生涯学習の発展と推進を願う関係者の参集を得て、先進地の実践事例の発表と研究協議を行うものである。(趣旨)

主催は、社団法人 新潟県社会教育協会、新潟県教育委員会、見附市教育委員会である。
内容は「オリエンテーション」「発表」「実践事例発表と質疑応答5市町村」

講演は「これからの生涯学習」と題して、元新潟日報論説委員長・現新潟経営大学講師 若杉正氏が登壇される。

申込 平成七年九月一日まで

市町村教育委員会へ(昼食用弁当、五〇〇円を斡旋する。希望者は併せて申し込みのこと)

問合せ先 新潟県社会教育協会
事務局(電話・FAX〇二五―二二八―二四一九)
千九五一 新潟市川端町二丁目
九番地県林業会館内

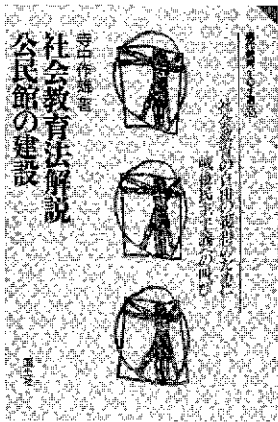
図書紹介

待望の復刻、

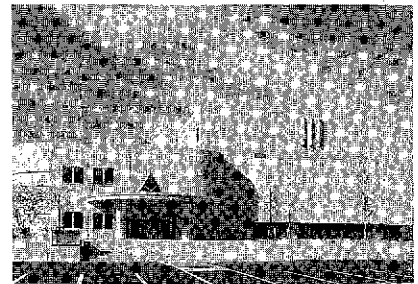
戦後社会教育創始者の名著

「社会教育法解説」
「公民館の建設」

寺中作雄 著
現代教育一〇一選第55号



発行 国土社



会場 見附市文化ホール

恵贈資料紹介

新潟市の生涯学習(平成七年度)

―新潟市教育委員会

学習資料一九九五

―新潟県婦人連盟

「わたしたちの学習」「炎」十日町市公民館

私たちの「聖籠町」「ふるさと探検隊」「ゆう・友・遊バック」

伝言板 グループ情バザール

―聖籠町公民館

―加茂市公民館

訂正・お詫び―七月号表紙コメント「大島村」の郡名は「東頸」です。深くお詫びします。

あとがき

◆ 県公民館大会が終了しました。かすかすの自然の驚異で厳しく迎えた大会でしたが、地域の重要な心よりどころとしての公民館の活動や存在が明確になった大会でした。ありがとうございました。

◆ 第36回関東申信越静公民館研究大会(第18回全国公民館研究集会)が来る10月19日(木)〜20日(金)に群馬県民会館を主会場に開催されます。まだ受付けています。(八月二十三日まで)ぜひご参加ください。(県公連へ直接お電話ください) (鴨)

発行所 新潟県公民館連合会

〒951

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【TEL・FAX (025)224-6073】

発行人 会長 細川 仁

編集人 事務局長 鴨井 三郎

【定価1部150円 年共・年極1,800円】